



SAITAMA CHORAL NEWS パウゼ

Pause

第 56 号

2022 年 3 月 31 日



埼玉県合唱連盟

〒330-8557 さいたま市浦和区常盤4-12-13

(朝日新聞さいたま総局内)

TEL 048-824-8161

FAX 048-831-5310

<http://saiclnet/>

～彩の国の歌声7団体出場～

第74回 全日本合唱コンクール全国大会

2021年10月30日(土)・31日(日) 高等学校部門(A・B)、中学校部門(混声・同声)

於：大分県大分市／iichiko総合文化センター iichikoグランシアタ

11月6日(土) 小学校部門(第3回全日本小学校合唱コンクール全国大会)

於：埼玉県所沢市／所沢市民文化センターミューズアークホール

11月20日(土)・21日(日) 大学職場一般部門(大学ユース・室内・同声・混声)

於：岡山県岡山市／岡山シンフォニーホール

【大学職場一般部門同声合唱の部】

男声合唱団APERTASS

団長 宇木 友哉



金賞・日本放送協会賞

男声合唱団APERTASSは「合唱で人生を豊かに」をモットーに越谷市を中心に活動をしております。

第74回全日本合唱コンクール全国大会、同声合唱の部に埼玉県代表として出場し、金賞並びに日本放送協会賞を受賞いたしました。コロナウィルスの影響で思ったような練習が出来ない時期もありましたが、その中でも出来ることを模索しコツコツと積み上げてきました。創立から5年目の団となります。結成当初から目標にしてきた全国大会のステージで歌えたことは何事にも代えがたい貴重な経験となりました。これからも男声合唱的魅力をより多くの人たちに伝えていけるよう頑張っていきたいと思います。

最後となりますが、これまでご指導くださった指揮者の松川先生、コンクールで熱いピアノ演奏をしてくださった石川先生、またコロナウィルスで大変な中、コンクール開催にご尽力いただいた埼玉県合唱連盟の皆様に心より感謝申し上げます。

【大学職場一般部門大学ユース合唱の部】

Ensemble SAKAE

大森 桃弥



金賞・日本放送協会賞

今回、Ensemble SAKAEとして全国大会に出場できましたこと、また金賞とともに日本放送協会賞を受賞させていただいたことを大変嬉しく思います。私達は名前の通り埼玉栄高等学校コーラス部の関係者による合唱団で、コーラス・吹奏楽・マーチングバンド部の卒業生と就職した方なども交えて出場しました。全員が無い練習する機会は本番前のみでしたが、曲も歌うこと、みんなが好きだったため、岡山シンフォニーホールという素晴らしいホールで先輩方などとともに楽しく演奏することができ貴重な経験になりました。私達を支えてくださった方々やこのような機会をくださった方々に感謝をし、これからも合唱をする喜びを多くの人に感じて欲しいと思います。





【高等学校部門Bグループ】

松山女子高等学校音楽部

部長 島崎 心菜



金賞

コロナ禍で、仲間と共に歌えることが当たり前ではないと気づいた今、全国大会という素晴らしい舞台に立たせていただけたこと、大変嬉しく思っております。コロナ禍により思うように歌えず、辛い日々もありました。部員同士で意見がぶつかることも何度もあり、私たちはたくさんの話し合いを重ねてきました。全国大会前日の夜も、3年生で集まり、お互いの本音を語り合いました。その結果、私たちは今回で7度目となる全国大会にて金賞を受賞することができました。コロナ禍でのコンクール開催を実現してくださった合唱連盟の皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。今後も、応援してくださる全ての方々への感謝の気持ちを胸に、練習に励んで参ります。

星野高等学校音楽部

部長 岸 千裕



銀賞

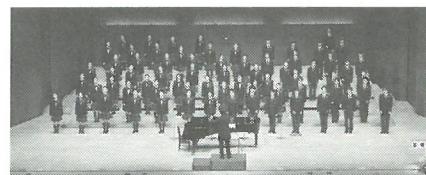
合唱連盟の皆様のご尽力により今年度のコンクールが開催されましたこと心より感謝申し上げます。昨年度は全てのコンクールが中止となり、舞台経験も無いままに2年生となりました。皆で集まって歌うことが許されず、練習時間も確保できない、そんなもどかしい日々が続く中で、コンクール出場が一筋の希望の光でございました。

初めてのコンクールの舞台を経験し、その厳しさや喜びを感じつつ全国大会に進出することができました。様々な理由で一緒の舞台に立てなかつた1年生と共に来年度も全国大会出場を目指して頑張ってまいります。

感染症が収束し合唱を愛する全ての人が自由に音楽を楽しみ、より良い音楽を奏るために全力を尽くせる日が来ることを願っています。

覗明高等学校合唱部

部長 大竹 葵音



金賞

この度、創部初となる全国大会金賞を受賞することができました。

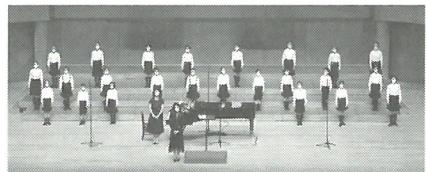
今年度も昨年度に引き続きコロナ禍のなか、活動は縮小を余儀なくされました。また、顧問の先生が変わり、年度当初は不安を感じる部員も多くいました。ただ、豊かな音楽を目指すという目標が変わった訳ではないため、活動を工夫したり、ミーティングを密に行ったりするなど、部一丸となり活動に取り組みました。

このような状況下で、iichikoグランシアタという素晴らしいホールで演奏させていただいたことは、私たちにとってかけがえのない経験となりました。いつも応援してくださる学校関係者、保護者、地域の方々、大会開催にご尽力され、貴重な機会をくださった合唱連盟の皆様に深く御礼申し上げます。

【小学校部門】

朝霞市立朝霞第十小学校合唱団 うたの輪

顧問 大塚 博子



銀賞

11月6日所沢市民文化センターミューズで開催されました第3回全日本合唱コンクール全国大会小学校部門に出席しました。

児童は、マスク着用、換気のできる広い場所の確保など、様々な制約がある中で練習を頑張ってきました。コンクール本番は、マスクを外して歌うことができました。演奏後、「気持ちよかったです」と、久しぶりにマスクなしで歌えた開放感と感動を多くの児童が共有していました。また、柔らかなオレンジ色のステージ照明やホールの木の温もりを感じながら素晴らしい会場で気持ちよく合唱することができました。

参加にあたり埼玉県合唱連盟、全日本合唱連盟の皆様はじめ多くの方々にお世話になり、ここにお礼申しあげます。



【大学職場一般部門室内合唱の部】

La Mer

代表 川畠 瑛理子



銀賞

結成からの15年間、長期で活動を停止した事は一度もありませんでした。2020年は、練習を再開してはまた停止し…を繰り返しておりました。工夫と努力によって合唱活動が少しずつ復活していった2021年、私たちは全国大会へ出場させて頂きました。競うのではなく、合唱を楽しんで届けるのだ！という空気が岡山シンフォニーホールの空間に満ちており、私たちも精一杯の演奏をしてまいりました。まだまだ課題は山積みでありながらも、団員一同健康でステージに立てたという幸運に感謝しております。今回は、新たに迎えた仲間たちや支えて下さる方々の応援も大きな力となりました。15周年記念演奏会を2022年の幕開けとし、La Merは歌い続けます！

撮影：(株)大阪フォトサービス(高等学校・中学校部門)
スタッフ・テス(株)(小学校・大学職場一般部門)

検討委員会よりお知らせ

従来の事業を中心とした小委員会に加え、以下の3つの検討委員会を立ち上げ、検討を行っています。

〔彩のうた2 検討委員会〕

長年使ったベージュの「彩のうた」、今年続編が出版されます。今回のコンセプトは

- ・大会での全員合唱で歌える曲
- ・広く知ってもらいたい理事の推薦曲です。

会場中のみんなと歌いたい曲、練習の時泣いちゃって歌えない曲、ついステップ踏みたくなる曲、故郷や命を想う曲、広く発表されていない曲等、小野瀬理事長、清野常務理事、南方事務局次長、南の4人で悩んで選曲いたしました。今年の合唱祭には皆様のお手元に届いていく予定です。

2年以上全員合唱を歌えていません。今こうして思うと、本番ステージの高揚も相まってか、幸せな時間だったなあと。参加者全員で1つの歌を歌う、そんな平和な日が一日も早く来る事を祈り、みんなで笑って歌っているところを想像しながら出版いたします。

(常務理事 南 めぐみ)

〔クラウドファンディング検討委員会〕

新型コロナの影響を受け、昨年度は連盟主催行事の中止が続き、今年度も様々な工夫を重ねながら行事を行つて参りましたが、参加者数の減少は大変大きく、その影響から連盟の財政も大変ひっ迫し、現状として連盟活動を続けることが大変厳しい状況に直面しております。

しかし、連盟といたしましては、これまで同様に様々な事業を通じた合唱活動を絶やさぬようにして参りたいと、今回「埼玉県合唱連盟応援プロジェクト～これまでもこれからも～（仮題）」と題したクラウドファンディングを立ち上げ、皆様からのご支援を賜りたいと考えております。

詳しくは、総会時にご説明をさせていただきますので、ご理解とご支援をどうぞよろしくお願ひいたします。

(副理事長 國弘 雅也)



〔ジュニア検討委員会〕

ジュニア検討委員会では、地域で活動するジュニアの合唱団に対して、どうしたら連盟の各種事業に参加していただけるか、その方法について検討を重ねました。

一つのアイデアとしては、将来的にジュニア関係団体だけでイベントを開催し、これを継続することで各団体間の理解と連携を深めていくことができれば、このことで連盟に対する理解も深まり、各種事業への参加意欲も高まるのではないかと考えています。

当面の対策としては、合唱祭の中にジュニアだけが集う時間帯を設け、最初は数団体でもこれを継続していくことで、大きな輪にしていきたいと考えています。

(副理事長 本田 尚子)

令和4年度
埼玉県合唱連盟 賛助会員募集のお願い

本連盟の活動方針に賛同し、活動を援助していただく方を広く求めています。

令和3年度は36名・10団体の方より合計332,000円のご援助をいただきました（令和3年12月24日時点）。

◎対象：加盟・非加盟を問わず20歳以上の方

◎1口：1,000円（2口以上）

お問い合わせは埼玉県合唱連盟事務局（TEL048-824-8161水・金10時～16時）または、連盟ホームページ内【埼玉県合唱連盟賛助会員募集】のバナーから詳細をご覧いただけます。

ご支援、ご協力をよろしく
お願いいたします。





～マスクも我慢の開催～

第33回

埼玉ヴォーカルアンサンブルコンテスト

2022年1月16日(日) 小学校の部・中学校の部

29日(土) 高等学校の部①・ユースの部

30日(日) ジュニアの部・高等学校の部②・レディーの部・一般の部

於：久喜総合文化会館



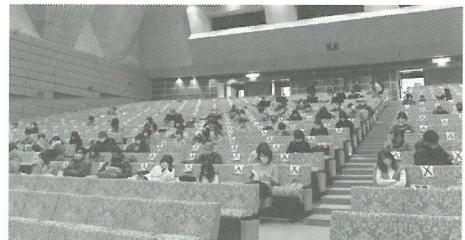
「いちる
一縷の希望…でも、当然
のように！」小野瀬理事長の
ご挨拶にあったように、今まで
当たり前のように開催され
ていたことが思うように出来
ない、なんとか工夫をして出来ないかと考え続けたコン
テストでした。そして、9月から会議を重ね、感染状況
が日に日に変わる中、どう安心して参加していただける
かを第一に運営をしてまいりました。

参加団体は、「小学校1団体・中学校31団体・高等学
校48団体・ジュニア3団体・レディー6団体・一般9団
体」と幅広い世代の参加をしていただきました。また、
感染対策のため、録音審査との併用で行い、大会2・3
日目には、係員の人員を減らし感染のリスクをなるべく
減らすように運営をしてまいりました。

その中で、当たり前のことではありますが、コンテスト
を行うにあたって様々な人が目には見えない努力をし
ていることを改めて考えさせられ、コンテストがあるあ
りがたみを痛感させられる1年間がありました。参加して
いただいた皆様、運営にあたって係員を行っていただき
ました皆様、審査をしていただいた皆様一人一人に深
く感謝を申し上げます。そして、学校現場においては、

保護者のご理解や日々のご指導など多くの方にご理解と
ご協力をいたいたことを改めて感謝申し上げます。一
般団体様は、公共の施設が使用できなくなってしまう中、
なんとか工夫をして練習をし、私たちの目には見えない
努力をして練習をしてくださいり、埼玉県は幅広い年代で
合唱が盛んであることを誇りに思いました。

この状況の中、私自身指導をしている立場で「本当に
合唱を行って良いのだろうか」と気持ちが折れそうなこ
とが何回もありました。しかし、本番での歌声や感謝の
言葉をいただぐと行って良かったなど、そして「合唱は
いいな」、「もっと多くの人に知ってもらいたいな」と、
強い気持ちにさせさせていただきました。来年こそ
通常のコンテス
トになることを願って前向きに
運営をしてまい
ります。



(常務理事 清野 将平)
撮影：スタッフ・テス株
埼玉県合唱連盟

第11回 関東ヴォーカルアンサンブルコンテスト審査結果

2022年3月12日(土) 高等学校部門

13日(日) 小学校・中学校部門、一般部門

於：群馬県藤岡市／藤岡市みかぼみらい館

高等学校部門

【金賞】埼玉栄高等学校コーラス部(支部長賞)、埼玉県立伊奈学園総合高等学校音楽部B、埼玉県立大宮高等学校音楽部、
埼玉県立伊奈学園総合高等学校音楽部A、埼玉県立浦和第一女子高等学校音楽部

【銀賞】埼玉県立松山女子高等学校音楽部、埼玉県立蕨高等学校音楽部

【銅賞】埼玉県立所沢北高等学校音楽部

小学校・中学校部門

【銀賞】上尾市立上尾小学校合唱団、星野学園中学校音楽部、栄東中学校コーラス部、さいたま市立宮原中学校合唱部
【銅賞】深谷市立幡羅中学校音楽部

一般部門

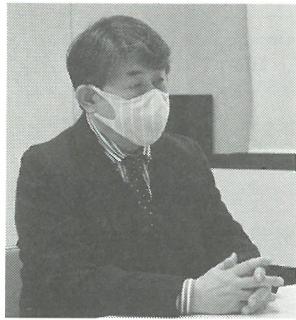
【金賞】Ensemble SAKAE、stella cadente、男声合唱団APERTASS B

【銀賞】男声合唱団APERTASS A、春日部ジュニアコーラス



菅野正美先生に聞く!!

～埼玉ヴォーカルアンサンブルコンテストを振り返って～



菅野先生）以下敬称略

まず最も重要なことは合唱文化の流れを確保し止めないということです。音源審査や無観客などの感染対策を講じながら、子供たちそして合唱を愛する皆さんが舞台に立って歌う機会を大人の責任において作っていきたいという強い思いがありました。

佐々木）

合唱活動の基本はライブであるとの強い思いがあつてのことですね。菅野）

その通りです。だからこそ私たちは検証実験により、歌い手同士の取るべき距離の確保や飛沫の飛散状況を明らかにしながら、歌える環境・条件作りを模索してきました。

佐々木）

繊細な対応と勇気ある決断、そして大人の責任によって困難な状況下でも文化活動を継続していく。そんな思いを持てるお話しでございました。

統いてSVECについての全体講評をお願いいたします。

菅野）

コロナ禍の煽りを受けて、練習時間の確保が最も難しかったのは中学生だと思います。それが演奏に表れていました。学校からの制約が相当厳しいものだったのだろうと思いました。高校・一般に関しては、練習時間をやりくりしながら埼玉県のレヴェルをキープできたのではないかでしょうか。

佐々木）

学校によって条件や状況が違うなかで、模索し努力しSVECの舞台に立ちました。

菅野）

埼玉県の合唱のレヴェルは本当に高い。特に高校生は素晴らしい。そこで敢えて申し上げますが、「先生を通して音楽をしている」「先生が前に出てしまう」そんな団体が未だ多いと思います。さらに厳しいことを申せば、先生が生徒の自発的音楽の邪魔をしていると感じた団体がいくつかありました。

それとは逆に勇気を持って子供たちに「預ける」団体もありました。もちろん、単に「子供だけでやる」ではダメで、子どもたちがお互いを感じながらアンサンブルすることができるように導く必要があると思います。そこに活動意識と音楽の質の向上があると思うのですが。

佐々木）

練習通りのことを舞台で披露するのではなく、その時、その場所でしかなし得ない音楽を仲間とともに作り上げる喜びを味わうこと。それこそがヴォーカルアンサンブルの本質ということでしょうか？

菅野）

子どもたちが考えて考へ、最良の答えを導き出そうとすること、それが最も大事だと思います。そういう意味では指揮者無しの演奏も選択肢の一つとして考えて良いと考えます。

佐々木）

菅野先生には2019年の1月にもインタビューをさせていただいております。日本合唱界のレジェンドとして、音楽作りや生徒との関わりかた等、多くの素晴らしいご助言を賜りました。（詳しくはPause第50号をご覧ください。）

前回伺えなかったことなので、是非ともお聞かせいただきたいことがござ

ざいます。

先生は全日本合唱コンクール全国大会に於いて安積女子高校の顧問として12回連続金賞受賞、および文部科学大臣賞を11回受賞され、NHK学校音楽コンクールでも最高位をお取りになっていらっしゃいます。その歴史のなかで、なぜ菅野先生は結果至上主義にならずに音楽と、そして生徒さんたちと真摯に向き合い続けることができたのでしょうか？

菅野）

それは、私自身のためにコンクールに出ていたわけではないのでね。金賞をとったから名誉だととも考えたことはないですね。

佐々木）

しかし、運動部・文化部ともに、より良い結果を残すことが目的になってしまい教育的ではない指導が問題になっているのはご承知の通りです。

菅野）

全ては「生徒」なんですよ。生徒のためのクラブ活動です。先輩の方が大好きな後輩が、先輩と一緒に良き音楽を作ろうと懸命に努力する。そして先輩が卒業すると、先輩から引き継いだものを基に「去年よりもっと良い音楽を作るぞ！」と更に努力します。他校さんとの戦いではなく「自分たちに打ち剋つ」ということかな。これが演奏の質を引き上げ、結果としてコンクールでの評価がついてくるということだと思います。それだけです。だから「私自身のために」と思ったことは一度もありません。

佐々木）

コンクールで「上」を目指すためには、効果的な音楽やコンクールのための音楽作りをしかねません。しかし、菅野先生の演奏からはそれが感じられない。

菅野）

子ども達との活動が楽しくて楽しくて仕方がないのですよ。それが幸せで、それが全てです。

佐々木）

それは教育者として最も大事なことですね。

菅野）

そして、人間が変わらないと何も変わらないですね。他者に対する思いやりや気遣い、親や先輩に対する感謝、そのようなことができ始めると音楽も自ずと変わってきます。周囲の応援してくださる方々の目も変わってきます。「君たちの気持ちが変わっていけば、全ては良い方向に回転していくよ」と言っていましたね。「人間的に愛される人にならないとダメだよ」と直接的には言いませんが、そんな雰囲気を作るようにしていました。

佐々木）

今回も素晴らしいお話を伺うことができました。菅野先生、ありがとうございました。



左から 小野瀬理事長、小林副理事長、
菅野先生、佐々木常務理事

インタビュー：常務理事 佐々木憲二
撮影：埼玉県合唱連盟



彩の国男声コーラスフェスティバル2021

2年連続で実施が出来ず、申し訳ありませんでした。とても残念です。

しかし、次回、2022年は10月1日(土)、舞台を秩父宮記念市民会館に移し実施予定です。初めての会場ですが、施設も新しく駅からも近い施設となります。

講師は皆様方からのリクエストが多くありました、武田雅博先生をお迎えする予定です。

尚、今回をもって関東支部との共催は最後となりますが、これからも益々楽しい行事にしていきたいと思っています。これからも皆様方のご参加、よろしくお願ひいたします。

(常務理事 蓮沼 喜文)

出演予定でした男声合唱団の皆様にコロナ禍の活動の様子をお聞きしました!!

〈メンネルA.E.C.〉

事務局 福島 洋

上尾市で練習している男声合唱団メンネルA.E.C.です。今年で創立23年になります。コロナ感染症が広がり緊急事態宣言が発出され合唱活動が出来なかった時期は辛く寂しいものでした。特に残念だったのは令和3年2月に第10回演奏会を予定していましたが、中止せざるを得なかったことです。団員は25名ですが、ほとんどが65歳以上で、コロナがある程度落ち着いてきたところで不定期で練習を再開しましたが、歌いたい気持ちと不安が交錯し少人数のスタートになりました。現在は月2回は練習場所を確保し、マスクをした練習にも慣れ、基本の発声練習から徐々に曲目を増やして色々なジャンルに挑戦しています。そして目標はいつか再び第10回演奏会を開くことです。



〈男声合唱団コール・グランツ〉

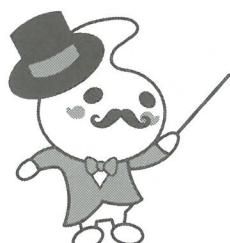
団長 加藤 良一

CDに録音 コロナ禍のひと工夫

多くの行事が中止され歌う機会が失われるなか、何か目標を持って取り組む方法はないかと検討した結果、きちんとした形で演奏を録音しCDとして残そうという事になりました。たまたま取り組んでいた『暗くて泣きたくなる男声合唱曲集』5曲を1枚のCDとするため、本番さながらの緊張感と集中力をもって歌いました。



2本のコンデンサーマイクと録音機を使い、WAV方式で録音しました。これは通常のMP3より容量が大きいですが、様々な圧縮形式に対応できます。録音データを音声編集ソフトで整理しコロナ禍記念CDが出来上がりました。新たな変異株の出現で先行き不透明ですので、録音も一つの目標に掲げて合唱活動を楽しめます。



この2年間、男フェスがコロナ禍で残念ながら開催されず、男声合唱団の皆さんのが歌聲が聴けなくてとても寂しいです。私の出番も控えめ…。早く高らかに歌い合って、その後のお楽しみ時間も復活したいですね！



《Il Campanile》

団長 宇佐美 平和

Il Campanile 活動の様子

10月ごろだったでしょうか、「そろそろ大丈夫かな?」「対策をしっかりすれば大丈夫!」と、1年以上団としての活動ができなかった Il Campanile 内部より声が上がり、少しずつですが活動を始めました。「曲は何にしよう??」「こんなのはどう?」と復帰した団員の中から候補曲がでて、現在は「バーバーショップの曲」を取り組んでいます。バーバーショップを歌っていて「声が響いていないなあ」「どうもうまくハモらないなあ」とブランクの大きさ? (実は力のなさです) を痛感しているところです。でも時折響く歌声に「歌はいいなあ!」としみじみ思います。なにか原点回帰のような感がします。まだまだマスクの外せない状況ですが、歌とともにある生活を始めたことは本当に素敵なことだと思います。



《男声あんさんぶる「ポパイ」》

団長 佐野 幸雄

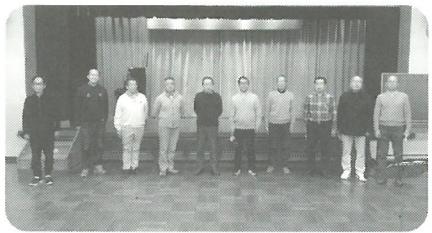
活動紹介

私達、男声あんさんぶる「ポパイ」は、春日部を拠点に活動している男声合唱団です。指導者は大岩篤郎先生。誕生は1992年2月。今年で創立30周年を迎えます。

この2年間、コロナ禍で我々も長期にわたり練習休止を余儀なくされました。昨年も、幾度か感染拡大局面もありましたが、県連ガイドラインを参考に定期練習を再開。6月に県合唱祭、7月と11月には地元春日部で市民合唱祭とコーラスフェスティバルに出演し、久しぶりのステージを楽しむことができました。

現在も月2回日曜17時から練習しています。マスクをしていても、やっぱり皆で顔を合わせて歌うのはとっても楽しいですね。今年は彩の国男フェスで男声合唱を愛する仲間との再会を楽しみにしています!

※9回目のコンサートに向けて団員募集中です。練習情報は下記ホームページで。<http://malechoirpopeye.g2.xrea.com/activity.html>



《Vive la Compagnie》

団長 加藤 良一

彩の国男フェス目指して結集したが、またしても中止に…

ヴィヴ・ラ・コンパニーはイベント毎に寄り集う男声合唱団です。2021年7月、まだ多くの合唱団は練習もままならない状況でした。自分の団の練習が始まらない人もいました。でも、なんとか都合のつく10人ほど

が集まり3曲を選んで練習が始まりました。ところが、無情にも9月になって男フェス中止の知らせが届き、目標が消え失ってしまいました。折角いい感じで仕上がって来たのに、このまま終わるのはもったいない、せめて録音だけでも残せないかと相談しました。しかし、コロナ禍は一向に改善せず、いずれ機会が来ればと願っていたものの、いつしか自然消滅となっていました。次回開催されれば必ずやりベンジします。





第45回全日本おかあさんコーラス埼玉県大会

2022年3月5日(土)・6日(日) 於：和光市民文化センター サンアゼリア



3年ぶりにおかあさんコーラス埼玉県大会が開催されました。安心してなるべく多くの合唱団の皆様に参加していくだけにはどうしたら良いか…

小委員会では議論を重ねて参りましたが、コロナ感染状況の変化により変更を余儀なくされることも多く、出演者の皆様にはご迷惑をおかけしたことと、大変申し訳なく思っております。

当日、美しく響きの良い和光市民文化センターのホールに、優しく喜びにあふれたハーモニーが響いた時間は、大変感動的でありました。衣装は更衣が出来ませんでしたので、いつもの美しいドレス姿ではなく、平服での出演となってしまいましたが、皆さんさすがです。それぞれの合唱団が、工夫しておしゃれにご自身を表現されているお姿、とても勉強になりました。不織布マスクまでお洋服とコーディネートされていて、女性ならではのセンスの良さを發揮していらっしゃいました。

裏方の係員の皆様が、合唱の素晴らしさを理解して歌声を支えてくださった事、それにこたえて仲間と歌える喜びをス

テージで表現してくださった事、それこそが「美しいハーモニー」であると感じました。充分な練習が出来なかったとは感じさせない、レベルの高い大人の発声、アンサンブル、表現力、講師の先生方からも高い評価をいただきました。講師の先生方のご講評は連盟のホームページにて動画を配信しております。是非ご覧ください。

最後に、全日本合唱連盟理事長、岸信介先生がプログラムに寄せてくださった文章の一部をご紹介させていただきます。「困難な状況の中でも、おかあさんたちの明るい歌声は、社会を照らす光のように私には感じられます。逆風の中でも歌への想いを持ち続け、仲間との合唱を継続し、本日の舞台を踏まれる皆さんに、心より祝福の拍手を送ります。」

さあ、皆さんまた前を向いて、仲間を信じて歌いましょう。そして来年、多くの皆様方が一緒に『ハーモニーを奏でる』

大会を楽しみにしております。（常務理事 竹下由布子）

撮影：スタッフ・テス(株)



聞いてみました！ コロナ禍での合唱苦労話



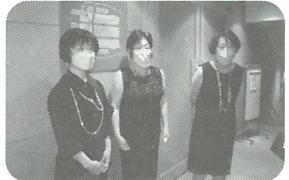
○団員は…

- ・団員が減った。それが一番大変。
- ・仕事や家庭の事情で参加できない団員がいる。
- ・コロナの為活動が中止となり、最近ようやく練習を再開できた。



○リモートを使って…

- ・リモートでの練習を試みたが上手くいかなかった。なるべく感染対策をして、顔を見て練習した方がいい。
- ・リモートで団員同士、雑談して気分を盛り上げた。



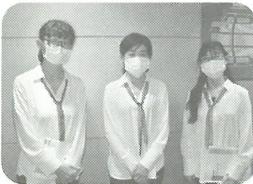
○練習場所は…

- ・練習場所の公民館が閉館になった時は大変だった。
- ・広い部屋を借りるために奮闘した。予約の担当者は大変だった。
- ・公民館に人数制限があり、団員全員は入れなかつた。



○練習では…

- ・感染対策として、広く、窓があり換気ができる部屋を使うようにしている。
- ・マスクで練習しているので、発声練習時に顔（表情）が見えないのが大変！
- ・マスクで歌うことに慣れてきた。
- ・歌いやすくするために、ワイヤー入りマスクや口カバーなどの工夫をした。
- ・マスクをつけての歌唱法を学んだ



○出演して…

- ・歌うことが喜びになっている。
- ・今日は参加できて良かった。目標が欲しい。
- ・平服での出演はちょっと困った。

インタビューに快くお答えいただき、
ありがとうございました♪

インタビュー：副理事長 小林とせ子



言葉の力がすべて～なかにし あかね先生にお聞きしました～

《2日間のおかあさんコーラス埼玉県大会を振り返っての感想をお聴かせください》



演奏する人と運営する人の目に見えないチームワークを感じました。どのステージからも、運営して下さる皆さんへの感謝と協力の気持ちが伝わってきました。この2年間各地で、「マスクの後ろに絶対に隠れないで！マスクの中は笑顔！マスクの中の表情が声の表情！」と言い続けてきました。それを言う必要を感じなかったのは今回が初めてです。

《歌とパフォーマンスの関連は》

パフォーマンス＝振り付け、ではなく、舞台から醸し出される全体がパフォーマンスです。今回「フィンランディア」を歌った団は、直立不動でもしっかりと祖国の誇りが伝わって来ました。立ち姿、ステージへの出入り、歩き方も含めすべてが舞台表現に含まれます。これから始まる音楽を予感させる並び方、立ち方、それら全てがパフォーマンス。大事なのは、何を表現したいかを一人ひとりが解っているか、演者に成り切れるかです。

《音楽・合唱をする上で大切なことは》

音楽は、作曲も演奏も「聴かれてなんば」です。他者に聴かれることで初めて成立します。言葉をどういう風に受け止め、提示し、物語や文脈を伝えるか、その曲を聴いて頂く時間をどう構成するか、作曲する時も演奏する時も考えるべき事です。

《なかにし先生は何に影響を受けましたか》

留学したロンドンで、自身を形作るアイデンティティについて考え、掘り下げる必要に直面しました。それなりに深い葛藤の末に、自分のあるがままのすべてが、自然にそこにあれば良いのだと思うに至りました。私にとって大切な一段階だったと思います。

ロンドン大学キングスカレッジでの作曲博士課程時代に、現代音楽の巨匠サー・ハリソン・バートウィッシュ（1934～）に師事し、大きな影響を受けました。「考え方、考え方抜け」と言われ続けました。楽譜を一目見て、「お前はまだ考え方抜いていない」と突き返されたこともあります！

イギリスでは日本語を外から見たいと思い、英語詩への付曲に集中的に取り組みました。ロマン派の英語詩は宝の山です。その後日本語に戻ってくると、言葉のスタンスや詩の感覚が違うのが、とて

も新鮮でした。今も英語詩と日本語詩を行ったり来たりしています。英語詩を原詩として自分が訳した日本語詩への作曲もここ数年続けています。翻訳者の詩に作曲するのとは違った距離感を感じられて、インスピレーションの宝庫です。

《今回の大会でなかにし あかね先生の作品を歌った団体へ一言》

星野富弘さんの言葉の力には、いろんな人のいろんな人生を受け止める包容力があります。言葉のひとつひとつに心を込めて歌って頂きとても嬉しいです。金子みすゞさんの作品を歌って下さった団もとても上手でした！『この道をゆこうよ』は山口県のみすゞ合唱団と大阪の岸和田少年少女合唱団にジョイント委嘱して頂いた作品です。子どもたちに歌いたい詩を選んでもらい、そこから私が組曲を組んだのですが、大人が組んだらこうはならないと思える詩の選択が素晴らしい、大切な組曲です。

《なかにし先生と合唱との関わり、きっかけは》

兵庫県の西宮少年合唱団が始まりです。大学では混声合唱のサークルに入りました。また、現代音楽の委嘱初演をするアンサンブルを、同期の友人達と作って活動していました。オーケストラでヴァイオリンを弾いたりピアノを弾いたり、様々な形で音楽と関わってきましたが、私は音楽に、文学的な入り方をしていると思っています。言葉と音楽の関係性は大学院時代からずっと研究し続けています。声を含まない、器楽だけの作品を書く時も、どこかに自分の中で「詩」をもっていることが多いですね。「ことばと音楽」をライフルワークとする上で、合唱は今後もまだまだ開拓したい分野です。

～ありがとうございました～



左から 浅子理事、小林副理事長、なかにし先生、三森理事

インタビュアー：理事 浅子 元、理事 三森 敏文
責：理事 浅子 元
撮影：埼玉県合唱連盟

第45回全日本おかあさんコーラス関東支部大会推薦団体

【関東支部大会】2022年7月2日（7団体）・3日（6団体）

於：静岡県三島市／三島市民文化会館

《埼玉県の出演団体》

Ladies Choir 潮の音、浦和女声合唱団、コール・マーガレット、女声合唱団 水脈、
アンサンブル・ソアーヴェ、春日部女声コーラス 清秀、合唱団 ラ・メール、
グラツィオーソ、コーラル・デイジー、コール・ドルチェ、女声合唱団 悠はるか、
女声合唱団「曙」、コーラル・ソシア

*埼玉県大会の出演順に記載しています。



突然ですが皆さん「たまりん♪」をご存知でしょうか？埼玉県の県章にもなっている勾玉をモチーフとした埼玉県合唱連盟のオリジナルキャラクターです。とても可愛らしいキャラクターで連盟の様々なイベントに出現し盛り上げようとはしているのですが、知名度が抜群に無いためスルーされてしまうことが多いようです（涙）。

そこで皆さんにたまりん♪を知ってもらい連盟のイベントをより楽しく過ごしてもらえたならと思います！たまりん♪ファミリーにはその他にも男フェスを担当する「パパリン♪」、おかあさんコーラスを担当する「ママリン♪」もいます。

先日行われました第33回埼玉ヴォーカルアンサンブルコンテストでは新たにパネル

ボードとスタッフバッヂにたまりん♪ファミリーが出現しました。気づかれたらちは「可愛い！」と大好評で、記念写真を撮られる方も沢山いらっしゃいました。これからも様々なイベントに出現予定ですので、ちょっとしたときに「たまりん♪を探せ！」をやっていただけたらなと思います。

コロナウイルスで色々と大変ではありますが、たまりん♪を通じて合唱がより身近なものと感じてもらえるよう、たまりん♪ファミリーには奮闘してもらおうと思っております。今後のたまりん♪の活躍にも是非ご注目ください！



パネルボード



スタッフバッヂ

(イラストアレンジ 常務理事 松川 大)
(たまりん♪担当)



Tact vol.32



指揮者 村田和子

50数年を振り返って

年月の流れの速さに驚いています。近年の、過酷な日々を経て、私個人の「合唱指揮者人生50年記念演奏会」も延期、延期の運命に、逆らえず3度目の予定を令和4年5月29日と設定し、今年こそはと団員の高齢化と共に団員数の減少に苦慮しながらも前を向いて歩く日々のこの頃です。

思い返すと埼玉県合唱連盟との関わりは私のその後の合唱活動に大きな影響を与えてくれました。記憶は定かではありませんが、確か浦和第一女子高校の音楽室での会議に合唱団の代表として出席した事からその一歩が始まり、尾花勇、小高秀一、田尻明規、宮寺勇、先生方と

の出会い、その後理事となり、あれよあれよという間に小高理事長時代に宮寺先生と共に副理事長という重責を担う事となり、宮寺先生に助けられながら、2期（4年、当時は定年制というものがあり）務めさせていただきました。この間埼玉県合唱連盟の活躍は、素晴らしいもので、加盟団体数も多く、中でも全国に先駆けての「おとうさんコーラス大会」その第1回目は川口のビール工場での開催、私の率いる「アンサンブル響」はその後連続10年間出場し、秩父や浜名湖の「花博」等関東各地で広がりをみせ、我「ひびき」は実力不足やメンバー不足の為本番のステージに小高理事長、宮寺先生、その他の方々が応援してくださった事等は懐かしい想い出です。又理事の多くが学校の教師だった為、恒例の親善旅行は春休みに行われ、関東近辺の一泊旅行も楽しく親睦を深めるものでした。

この間、私が手がけた合唱団は、児童合唱団、中学校合唱部、女声、混声とその輪が広がり、児童合唱団「コ一口・ミーテ」はハンガリーやウィーンに、又女声合唱団はイタリアのアッシジの教会での演奏会等今も記憶に残る貴重な体験をいたしました。これも県連の佳き先輩、そして拙い合唱指揮者を信じて付いて来てくれた多くの団員との深い絆があった事に尽きると心から感謝いたします。ありがとうございました。

新企画
コンサート訪問



Bravi (ブラーヴィ) とは
Bravo (ブラーヴォ) の複数形で、複数の演奏者に対する賞賛の掛け声 (イタリア語)。

秩父連峰がはっきりと見える冬の晴れた日、女声合唱団ラ・シレーヌ2ndコンサート（2021年12月19日 ウエスタ川越）に足を運んだ。

コロナ禍、会場入口で検温と手指消毒をしっかりと行う。密を避けた着席により安心した気持ちで演奏を待ち構えた。そして、ローズピンクのドレスに身を包む団員の登場で場内は一気に華やかな空気に。第1ステージは『アカペラと聖歌』（信長作品、木下作品、そしてロッシーニの「三つの聖歌」）。やわらかくビロードを思わせるハーモニーが響き渡った。

女声合唱団ラ・シレーヌは、故小高秀一先生の呼びかけにより2009年に結成。川越女子高等学校同窓会総会出演のため、音楽部OGが中心となって結成（2ndコンサートプログラム参考）。小高先生がご逝去されたあとは、氏の教え子でもあった浅井一郎先生がご指導されている。2017年11月に1stコンサート。2ndコンサートは本来であれば2020年の予定であったが、コロナ禍によりこの度の開催となった。

どの合唱団も活動が難しく十分な練習を重ねられていない中、ラ・シレーヌの歌声はそれを感じさせない優雅で潤い溢れたものであった。シレーヌとはフランス語で「人魚」の意味。ドイツのローレライやデンマークのアンデルセン童話などヨーロッパ各地に見られる人魚伝説を想起させる美しい響きである。

第2ステージ『サトウハチローの世界』、第3ステージ『信長貴富の作品』とステージが進むにつれて、歌声はさらに充実していく。その言葉はマスク越しであってもはっきりと伝わり、知的な演奏をより説得力あるものにした。個人的には第2ステージ終曲、「だまって」（サトウハチローの詩による「五つの歌」より）にとても心を動かされた。情景描写が秀逸で思わずグッときてしまった。第3ステージ、「III. 風のなかの挨拶」（女声合唱とピアノのための「風のなかの挨拶」より）には、未来への希望、このコロナ禍の現状と重ねて安心な日常が早く戻ってくるように、という思いが湧き上がってきた。

演奏会に足を運ぶ機会が減った中、とても嬉しく、また希望と喜びに満ちた思いで会場を後にした。2022年は良い年となりますように。

（事務局長 三沢 豊）

コンサート訪問に来てほしい！という合唱団は、埼玉県合唱連盟にお問い合わせください。（加盟団体に限らせていただきます。）



♪ 私たちの場所

Stage



文教大学合唱団コール・リンデ

団長 小田井未佳

私たち文教大学合唱団コール・リンデは、文教大学越谷キャンパスで基本週に2度活動しています。平成17年に1度活動を停止しましたが、平成20年に再結成され、現在は約20名で日々楽しく活動を続けています。年に1度の定期演奏会をはじめ、他大学との合同コンサートや、学内コンサート等も行っています。新型コロナウイルスの影響で、リモートでの練習が続いていましたが、徐々に対面での練習を再開し、誰かとともに歌うことの楽しさを改めて感じています。今年度（2021年度）は新入部員を6人迎え、より一層リンデの音に深みが増したことかと思います。今後も団員一同貴重な出会いを大切に、合唱に取り組んでまいります。

さとえ学園小学校

顧問 伊藤 元気

私たちは3年生から6年生の17人で活動している、小さな合唱団です。少人数で団員同士の距離感も近いので、学年関係なく仲良く、切磋琢磨しながら練習をしています。平日と土曜日の放課後に週3回活動をしていますが、子どもたちは塾や本校の放課後プログラムで忙しく、全員揃って歌うことができる本番だけ…そんな合唱団です。

今年度も感染症の影響で様々な困難がありました。そんな中でも開催されたコンクールでは、久しぶりに味わう緊張感や、歌を披露することの喜びを改めて感じることができました。今後も大変な時期が続くかもしれません、こんな状況だからこそ再確認できた歌うことの喜びや楽しさをかみしめながら活動したいと思います。



埼玉県合唱連盟公式

Twitter  Facebook 

編	集
後	記

Pause56号をお届けいたします。全日本合唱コンクール、SVEC、おかあさんコータス埼玉県大会の特集と各インタビュー、男声コーラス団体の活動紹介などの内容です。コロナの影響はまだ続きそうですが、今後も皆様の豊かな合唱ライフをお手伝いします。
(理事 浅子 元)

ボラスの
オール
リフォーム
ポラスで
リフォーム
したら、



父は
エッグベネディクト
をつくり始めた

家づくり発想の
リフォームで
10年連続
No.1
埼玉県で
リフォーム売上高

*ボラスグループリフォーム売上高(2021年9月 リフォーム産業新聞調べ)

ポラスでリフォーム



0120-85-7272

フリーコール

住まい価値創造企業
POLUS
ボラスグループ

